

令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山商業高等学校

校長名： 西上 嘉人

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・健やかな心身と正しく強い意志をもった生徒
- ・高いコミュニケーション能力と他者を尊重し協働できる力を備えた生徒
- ・地域経済に貢献できる専門的知識と技術を身につけた生徒
- ・希望の進路に対応できる学力と社会人としての教養を身につけた生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページ上で公表

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月14日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	主体的に学習に取り組む態度と知識・技能を着実に育てる。	B	主体的に学習に取り組む態度の育成を目的とした公開授業を実施し、授業改善を図る。	項目を生徒の主体的な取組の自己評価とし、指標をその評価結果とする。	B	授業アンケートでは、学ぶことの楽しさ厳しさを味わうことができているという項目に「あてはまる」「大体あてはまる」と答えた生徒は全体の91%であり、主体的に学ぶ動機付けはできている。	主体的に学習に取り組むために必要な動機付けはできているので、具体的に家庭学習や授業の予習復習につながるような仕組みや評価の仕方が必要である。各教科で情報共有し、主体的に学ぶ態度を育てるための取り組みを学校全体で広めていく。
			予習や復習の宿題を意図的に課すことによって、家庭学習の時間を確保する。	項目を家庭学習に対する取組状況等とし、指標を家庭学習の時間とする。	B	授業アンケートでは、授業の予習復習を十分に行っているという項目で、「あてはまる」「大体あてはまる」と答えた生徒は全体の62%であった。また、1日あたりの家庭学習の時間の項目では、「1時間以上」する生徒が全体の19%にとどまっている。	
2	商業高校の利点も生かしながら、生徒の希望進路の実現を図る。	B	進路 LHR（企業や大学等と連携を含む）で進路意識を育てる。	①全商簿記1級、全商情報処理1級、全商英検1・2級の合格率が、本校過去5年間の合格率の平均以上であったか。 ②大学、短大等の合格率が前年よりも上がったか。 ③就職内定率が100%であったか。	B	全商英検は過去5年間の合格率の平均を上回ったが、他の検定は出来なかった。しかし、全商簿記1級、全商情報処理1級の合格率は昨年度より増加している。	奨学金制度等も充実してきており、進学希望者全員の進路が叶う時代である。しかし、商業高校の特性を活かした進学実績が低迷傾向である。キャリア教育を通して、自分の進路と早くから向き合う方策を身につけさせたい。
			進学・就職に関する情報提供や補習、個別指導等を実施する。		B	大学、短大共に合格率はほぼ例年どおりであった。しかし、難関大への進学希望者数は減少している。	
			連携協定を結ぶ大学との交流を深め、進学意識を醸成させる。		A	就職内定率は100%で、希望職種に全員就職することができた。	
3	各種特別活動を通して、他者を尊重し協働できる力を育てる。	B	学校行事を通して、生徒相互の連帯感や思いやり、自主性、自立性を養う。	項目を生徒記入用の学校評価に係るアンケートの項目とし、指標をその評価結果とする。	A	学校行事では3年生を中心に積極的に取り組み、アンケート結果では93%が肯定的であった。	学校行事では、学年を越えた取組を行ったり、新しい内容を取り入れたりした。今後もさまざまな学校行事を通して、コミュニケーション力を育てる指導や支援をしていく。部活動は任意加入であるが、部活動に対して魅力を感じ、積極的に加入する生徒の育成を推進する。
			部活動への積極的な参加を働きかけ、人間関係形成能力を育てる。	項目を部活動の加入率とし、指標を加入率の前年度比とする。	C	今年度の加入率は70%で、昨年度の76%から減少した。	
4	学校生活全般を通し、健やかな心身と正しく強い意志を育てる。	B	学校の諸活動で「時を守り 場を清め 礼を正す」ことを徹底させる。	①授業遅刻者数の半減 ②挨拶・身だしなみの改善 ③清掃状況の改善	B	遅刻者数は例年ほぼ横ばいである。挨拶ができる生徒が多いが、身だしなみについては更なる改善が必要である。また清掃状況は良好である。	遅刻者には粘り強く話し合いを続け解決していく。身だしなみについては、校則の意義を伝え、規律ある生徒を育てる。社会や地域に貢献する生徒を育てていくため学校運営協議会を通し、地域との連携をさらに重ねていく。
			学校運営協議会で現状に係る協議を行い、協働した指導を実施する。	①同協議会での協議の有無 ②同協議会での提案の有無 ③同協議会との協働の有無	B	制服検討委員会において、生徒会とも協議を行い、女子のスラックスパンツやポロシャツ導入の検討などを行い、生徒たちが主体的に関わるよう取り組んだ。	

学校関係者評価
(2月18日実施)

<各種アンケート調査等について>

・評価が高い。特に、本校には他の学校にない特色があるとの評価は、生徒保護者ともに高いのは、先生方の努力の結果であろう。また、先生方自身もインターンシップやキャリア教育に積極的に取り組んでいることがわかる。

・1日あたりの家庭学習時間が少ない結果となっていることが気になるが、先生方は授業内容や進め方に工夫していると回答しており、その取組を今後も進めてほしい。

<各種検定について>

・検定の結果が芳しくないとの自己評価だが、看護医療系など高校卒業後の進路によっては検定が必要ではない進路もあり、生徒は合格に執着しなくなってきているのではないかと。全員受験ではなく、希望者受験とすることも検討が必要。

<特別活動等について>

・部活動への積極的な参加を評価指標とし、加入率が低いことで自己評価をCとしているが、インターハイ優勝や全国大会入賞もしているため評価は高いと考える。指標を再検討した方が良い。

<学校生活全般について>

・先進校視察も積極的に行われ、アンケート結果からは先生方の努力も見取れる。

・生徒もアンケートに、他の学校にない特色がある。また、本校での学習は興味・関心に応じて選択できる科目が多い、自分の適性や進路に応じて選べるかと理解している。

・先生方も今後の本校の在り方を、キャリア教育の観点から改革していこうとしており、より一層の発展を期待する。